

# 令和7年度 京都市立嵯峨中学校 学校教育目標

## 京都市の目指す子ども像

伝統と文化を受け継ぎ、次代と自らの未来を創造する子ども

## 京都嵯峨学園教育目標

地域に学び、豊かな人間力を育む小中一貫教育を目指す。

## 令和7年度 重視する視点（学校教育の重点）

子どもの「主体性」と「社会性」の育成を目指し、「自ら学ぶ力」と「自ら律する力」を学校・幼稚園全体の教育活動の中で高める。

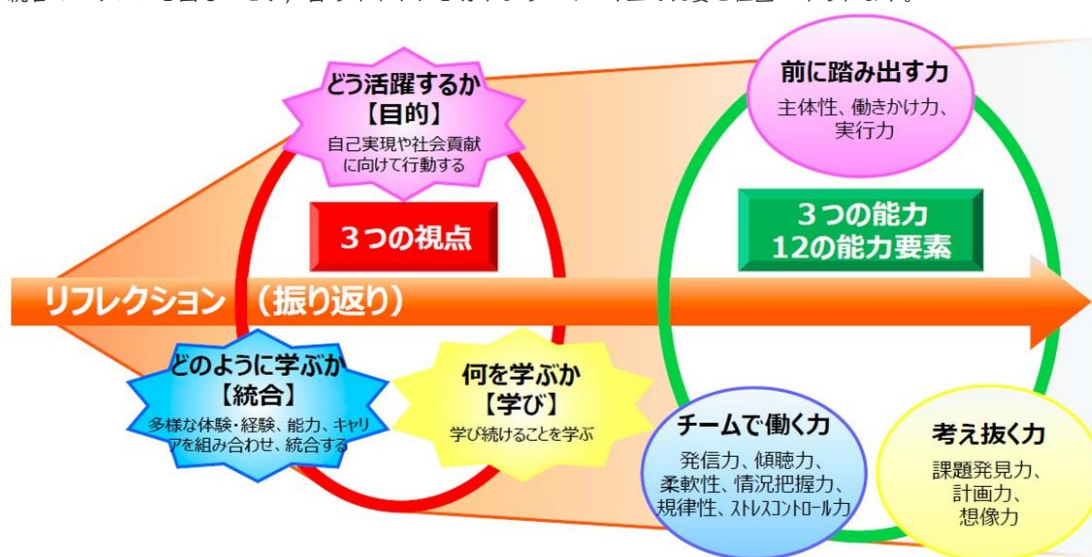
## 学校運営方針

- ① 主体的・対話的で深い学びを重視し、学びの質を高められる授業実践を行う。  
「指導と評価の一体化」を図り、授業や単元ごとの評価をどのように見取るのかを研鑽する。
- ② エスノートを日々活用することで、学習・生活について主体的・継続的に計画・実行できるように育成する。また、学校での授業と家庭学習との連動を図り、自学自習の習慣化を図る。
- ③ 地域の人的・物的教育資源を有効に活用した「地域とともにある学校づくり」を推進するなかで、学びと社会のつながり・接続を重視するとともに、「公共の精神」に基づく態度を育む。
- ④ 全教職員が学びの質を高められるよう研鑽し続けるとともに、持続可能な学校教育を実現するために働き方改革を推進する。（「働きがい」や「モチベーション」を高められる教育実践を目指す。）

## 学校教育目標

嵯峨・嵐山・広沢地域の豊かな自然と文化の中で、社会人基礎力の育成を目指す

「社会人基礎力」とは、「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の3つの能力（12の能力要素）から構成されており、「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」として、経済産業省が2006年に提唱しました。平成29年度には「人生100年時代の社会人基礎力」と新たに定義され、社会人基礎力の3つの能力／12の能力要素を内容としつつ、能力を発揮するにあたって、自己を認識してリフレクション（振り返り）しながら、目的、学び、統合のバランスを図ることが、自らキャリアを切りひらいていく上で必要と位置づけられます。



## 目指す生徒像

「一生懸命はカッコいい!」・「120%の嵯峨中魂!」・「5つの心(素直・反省・奉仕・謙虚・感謝)を磨く!」

**自律** 何事にも挑戦し、最後までやり遂げる強い意志と身体をもつ生徒 【前に踏み出す力】

**創造** 自ら課題を発見し、自律的に解決することができる生徒 【考え抜く力】

**共生** 多様な人々といっしょに、目標達成に向けて協力できる生徒 【チームで働く力】

## 目指す教職員像

○ 常に学び続け豊かな人間性がある教職員 ○ 質の高い授業で勝負できる教職員

○ 生徒に寄り添い愛情と情熱のある教職員 ○ 誠実かつ迅速に行動できる教職員

「チーム嵯峨中」として、同僚から「ありがとう」と感謝してもらえるような仕事をしよう!

## 学校経営目標

「これからの未来を創造する生徒たちを育てる魅力ある教育活動の実践」

○ 生徒が「嵯峨中で学べてよかった」と思える学校

○ 保護者が「嵯峨中に通わせてよかった」と思える学校

○ 地域が「嵯峨中の教育活動を応援したい」と思える学校

○ 教職員が「嵯峨中に勤務してよかった」と思える(誇れる)学校

## 令和7年度 重点目標と詳細

### ① 学習指導要領および学校教育の重点のねらいに沿った対応

○ 「主体的・対話的な深い学び」が得られる授業の実践を行い、学びの質を高めていく。

● 単元ごとの授業構成を考え、「生徒がどういった力が身に付いたか」という学習の成果を的確に捉えて指導改善につなげるとともに、生徒自らの学習改善につながるよう、「指導と評価の一体化」を進めていく。

● 授業の中で学習評価をどのように見取るのかを考え、授業実践を行い、研鑽を積んでいく。

○ 家庭学習の習慣化と日々の授業との連動を図る。(振り返りの重視とエスノートの活用)

○ ICT機器の効果的な活用を通じた情報活用能力の育成を図る。(KYOTO×教育DXビジョン)

○ 授業にICTを組み合わせ、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させる。

### ② 働き方改革の推進

○ 超過勤務45時間以内を目指した働き方の構築

○ 教職員の意識改革と自己研鑽による資質・能力の向上

○ 教員としての「働きがい」や「モチベーション」を高められるような働き方の構築

～自分たちの教育実践が、生徒たちの成長や変容、学力向上へとつながっていくように～

※ ○ は継続しての取組 ● は新規の取組